

布施辰治 生誕一三〇年
ドキュメンタリー映画

弁護士 布施辰治

生きべくんば民衆と共に、
死すべくんば民衆のために

一〇〇年前、韓国を強制併合した日本、
それは徹底した人権抑圧の時代であった
「一人だっって見殺しにされていい人類などない」
私たちへ「生きるとは何か」を語りかける

〔キャスト〕 赤塚真人

浅野允之 / 石沢真由子 / 大木 章 / 木村加奈 / 酒井和昭
白仁裕介 / 鈴木里衣菜 / 武田和佳 / 寺本岳久 / 富田祐一
早坂 蓮 / 船津 基 / 真延心得 / 劇団 GO ART

〔ナレーター〕 湯浅真由美

〔脚本〕 中村雅俊 / 浜名実貴 / 伊藤 徹 / バクスファン / チョン・ヒョジン

〔監督・脚本〕 池田博穂

〔原案〕 野間 健 〔音楽〕 小六禮次郎 〔製作〕 Office 池田

〔製作協力〕 (有)共同企画ヴェーロ / 伊藤塾 / (株)法学館憲法研究所 / 桑山プロダクション

〔原案〕 石巻市 / 東松島市 / 女川町 / 大崎弁護士協会

〔加勢〕 日本弁護士連合会 / 東京弁護士会 / 自由法曹団 / 日本国民救援会

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟 / 日朝協会

〔企画製作〕 ドキュメンタリー映画「弁護士 布施辰治」製作委員会

TEL: 03(5840)9361 / FAX: 03(5803)9530

<http://www.fuse-tatsuji.com/>

10月29日(土) 岡山県総合福祉会館 1階

上映時間は10時30分・14時の2回です。

入場料 前売り1000円・当日1200円・高中学生700円

「布施辰治」岡山県上映実行委員会 連絡先 国民救援会 086-254-2799

「任侠、これ弁護士の使命なり」

公害の原点といわれる足尾銅毒問題、治安維持法などによる言論・思想の弾圧、数百万人もの命を奪った東アジア諸国への侵略や強制連行などを伴って日本の近代化は進められました。

宮城県石巻に生まれ、明治法律学校（現明治大学）に学び一九〇二年二一歳で法曹の道に踏み出した布施辰治は、徹底して民衆の中において、命、人権を守る『社会の一兵卒』としての弁護士人生を貫きます。

朝鮮独立運動への献身的支援、普通選挙権運動、自由法曹団や救済会などの組織、関東大震災での大量の社会主義者・朝鮮人虐殺の真相と責任の追及、借家人同盟の結成、大逆罪をでっち上げられた朴烈・金子文子の弁護や台湾製糖会社の横暴に苦しむ農民たちの闘いの弁護、小作人権利や岩手県北上山地入会地紛争の調停など、精力的に活動を展開していきます。

こうした布施に対して、権力からの弾圧もすさまじく、三・一五事件の弁護活動や雑誌に載せた記事を理由に逮捕、そして治安維持法違反で弁護士資格を剥奪されていきます。息子の杜生も学生運動で検挙され四四年獄死。弁護士資格を奪われていた布施は息子の弁護もできず「俺の息子ゆえに殺された」との思いを強くし、戦後弁護士資格を取り戻すと朝鮮建国憲法私稿作成の取り組みや、若者たちの命を救うために全力をあげていきます。そして、三鷹事件の弁護団長として全員無罪を信じてたたかう中、七三歳の生涯を閉じます。二〇〇四年、韓国政府は独立に寄与した愛国の士として「建国勲章」を布施辰治に贈ります。

布施生誕一三〇年、韓国強制併合一〇〇年、虐げられる者、弱者の立場に身を置き、「生きべくんば民衆とともに、死すべくんば民衆のために」の生涯を貫いた弁護士布施辰治が、いま、私たちに語りかけます。

「世の中に一人だって見殺しにされていい人類はいないのだ」

ぜひ多くの仲間とご覧いただき、今と未来を語り合ってください。

インタビュー・証言者

- 阿部三郎（弁護士・元日本弁護士連合会会長）
- 阿部一彦（旧女川町立第四中学校教諭）
- 上田誠吉（弁護士・布施弁護士と共に活動・故人）
- 大石 進（布施辰治の孫）
- 大石乃文子（布施辰治の長女・故人）
- 大塚一男（弁護士・布施弁護士と共に活動）
- 角田義一（弁護士）
- 庄司捷彦（弁護士・石巻在住）
- 竹澤哲夫（弁護士・布施弁護士と共に活動）
- 森 正（名古屋市立大学名誉教授）
- 山泉 進（明治大学教授）
- 女川第四中学校の生徒たち
- 李 圭洙（韓国・東亜細亜学院教授）
- 姜 尚中（政治学者）
- 姜 徳相（在日韓人歴史資料館館長）
- 金 英（在日朝鮮人、布施に弁護してもらった）
- 辛 昌錫（布施弁護裁判の被疑者）
- 鄭 峻泳（韓国在住・布施辰治顕彰運動者）
- 韓 勝憲（韓国在住・弁護士）

